

深イ〜話!

No.54

—「一瞬で輝く、奇跡の授業より」—

Mランド(益田ドライビングスクール)の小河^{こがわじろう}二郎さんから教えていただいた話です。Mランドとは、島根県益田市にある、「合宿制の自動車教習所」です。

Mランド内には「05527」というバス停があります。

これを見ると、みんな「『05527』って、どういう意味ですか？」と聞いてくるそうです。すると小河さんは、このお話をされるそうです。

「05527」とは、1905年5月27日のこと。

この日は日露戦争の日本海海戦があった日で、日本が、ロシアのバルチック艦隊に勝った日なんです。当時、ロシアは世界の強国の一つと言われていました。ロシアは、南下政策といって、南に南に領土を広げていました。当時は海運の時代…つまり、物資の輸送手段が船という時代ですから、冬になって港が凍ってしまうと、本当に困るんですね。

ロシアが持っている海は北側で、冬になると凍る港ばかりだったんです。だから、冬でも使える港がほしくて、南へ領土を広げていったのです。



当時、アジアの国の中で、独立していた国は日本とタイだけ。あとは全部ヨーロッパの植民地。そんな時代にロシアが攻めてきたんです。日本もこれはまずいと、大陸に軍隊を送り込んでロシア軍と戦い、次々と勝利し、北へ北へとロシア軍を追い上げます。

ロシア皇帝にしたら、「何やってるんだ！ いつまであんな小さい島国に手こずっているんだ！」というわけで、当時世界最強と名高かったバルチック艦隊を日本海に送ってきたのです。

大陸で戦っていた日本軍には、日本海を渡ってドンドン兵隊や物資が送られてくるわけですから、ロシアは、「日本海を押さえれば日本軍も終わりだ」と考えたのです。そして、世界中が思ったそうです。「日本が、あのバルチック艦隊に勝てるわけがない。これで日本も占領されるにちがいない」

ところが、当時の司令長官、東郷平八郎さん率いる日本の連合艦隊が、ほんの数時間で、バルチック艦隊をほぼ全滅状態にした。

日本軍側はほとんどやられなくて、世界中で「奇跡だ！」と大ニュースになったそうです。それが1905年5月27日でした。

さてこの時、なぜアジアの小国日本が、世界の大国ロシアに勝てたか、わかりますか？

もちろん、東郷さんの戦術、戦略はすばらしかったと思います。でも、小河さんは、「それだけじゃない。この時、日本という国は、世界中から尊敬されていた。だから勝てたんだ」と言うんです。

なぜ尊敬されていたのか、という話なんですけど、例えば、日露戦争が始まる時には、国民にお達しがくるんです。

「これから日本はロシアと戦争をするが、たとえ敵国でも、ロシアを侮辱するようなことを言ったりやったりしてはいけない」と。

そして、実際にロシアを侮辱する言葉を使った人は、捕まったそうです。

実際こんな話があります。愛媛県松山市に、捕虜収容所がありました。

「捕虜収容所」と言うと、高い塀があつて、強制労働をさせられて、食事も満足に与えられない……そんなイメージがあるじゃないですか。でも、日本では違うんですって。捕虜が到着すると、松山市長があいさつをするのです。

「みなさん、大変でしたね。お疲れ様でした。戦争が終わるまでは、ここでゆっくりしてってください」
そんなあいさつです。

捕虜収容所も、塀なんかなくて自由に出入りできたそうです。

しかも、松山には道後温泉という有名な温泉がありますが、捕虜の人たちは自由に入れたようです。それを日本人は許したんです。ロシアの人たちも、それを知っているんですよ。

だから、戦争をしていて、撃ち合っている、自分が負けそうだとすると、すぐに銃を投げ捨てて、両手を挙げて、「マツヤマ〜！」と叫ぶんですって。

こんなところで命を落とすのは嫌だ、割に合わない、松山はいいところだって言うじゃないか、俺を捕虜にしてくれ！俺を松山に連れて行ってくれ！

「マツヤマ〜！」……と白旗を揚げてくるわけですね。

日本人は、敵であろうが捕虜であろうが、そんなことは関係なく、人を人として認め、敬い、大切に思う……そんな心を持っていたんです。

そして、そういうことを世界中の人たちが知っていたんですね。

世界中の人たちが、日本人はすごい、日本国民は、素晴らしい人間性を持っていると思ってくれていたんです。

だから、日露戦争のときに、世界中が、「日本に勝たせてあげたい。日本を守らにやいかん」と思ってくれていたんだと、私は思うんです。

そんな時に、バルチック艦隊がロシアの港から出てきたわけです。日本海を目指して、7カ月もかけて。7か月というのは長旅ですから、途中で休憩もしたい、物資も積み込みたい、船のメンテナンスもしたい……と各国の港に寄るわけですよ。でも、立ち寄る港から、ことごとく「出ていけ」と言われてしまうんです。「これから日本をつぶしにいくバルチック艦隊を、私の国で休ませるわけにはいかない」と言って、休ませてくれないんです。ロシア軍は休みたくても休めない。だから、7か月後に日本海に着いたときには乗組員たちはみんなへとへとです。それに引き換え、日本の連合艦隊は命がけ。

ここで負けたら占領されると、背水の陣で戦いますから、もうあつという間に勝負がついたそうです。

当時、日本が尊敬される国だったから、だから、日本は勝てたんですって。

私は、小河さんがしてくれたこの話を、忘れられません。歴史から学ぶことって、いっぱいありますよね。でも、私たちはまだまだ全然歴史を知りません。本当は、こういう世界中から尊敬された日本人の心こそ、歴史の授業で教えなければいけないんじゃないかと思います。

こういうことを教えたら、子どもたちは、「これから、どんな生き方をしなきゃいけないか」と考えるじゃないですか。

「人に優しくしなさい」なんて言うのではなくて、こういう話をきちんと語るほうが、ちゃんと心で理解して、自分で考えて、自分で行動すると思うのです。